

第 8 9 0 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 3 年 1 0 月 2 8 日（木） 9 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 2 会議室

益田市教育委員会

第 8 9 0 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 3 年 1 0 月 2 8 日（木） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市役所 第 2 会議室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

議第 1 4 号 益田市教育委員会感謝状の贈呈について

報第 3 9 号 「令和 3 年度全国学力・学習状況調査」及び「令和 3 年度益田市定着度調査」結果について

報第 4 0 号 文化施設 2 館の目指すべき将来像について

第 4 その他

(1) 情報提供

- ・雪舟の郷記念館特別展「雪舟ゆかりの戦国武将－益田氏・大内氏・毛利氏－」の開催及び日本遺産マルシェをはじめとした関連企画の実施について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	高 市 和 則
教 育 委 員	村 上 三 恵 子
教 育 委 員	中 野 純
教 育 委 員	梅 津 富 美 子
教 育 委 員	大 庭 隆 志

事務局職員

教 育 部 長	野 村 美 夜 子
ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
教 育 総 務 課 長	長 嶺 勝 良
学 校 教 育 課 長	田 原 啓 文
学 校 教 育 課 参 事	松 元 善 生
文 化 財 課 長	山 本 浩 之
人権・同和教育推進室長	岡 崎 勝
美 都 分 室 長	田 中 一 史
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
教 育 総 務 課 主 任 主 事	岩 崎 俊 也

高市教育長 ただいまより第890回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

10月1日でございますが、吉田小学校に1日訪問してまいりました。

続きまして、4日でございます。こちらにつきましては、先日市内の株式会社ワークスさんから空気清浄機を各校1台ずつご寄贈いただいたということに対しまして、新型コロナウイルス感染症対策等の関係で日程調整が遅くなりましたけれども、その件につきまして感謝状を渡しに行ったというところでございます。

5日でございますが、こちらは美都中学校に1日訪問してまいりました。

6日でございます。こちらは、市内でご活躍をされた青木久喜先生、益田市ご出身でして、初任が昭和24年、中西小学校を初任とされまして、真砂中学校、中西中学校、吉田小学校の校長をされまして退職をされた先生でございます。退職後につきましては、北仙道小学校で初任者研修講師をしていただきました。その後、安田公民館で公民館指導員を平成9年までしていただいたという方でございます。非常に残念なことに6月16日にお亡くなりになられたということで、今までの市に対する功績、また国に対する功績ということで、従六位の叙勲の伝達ということになりまして、ご親族の方に叙勲の伝達をしてきたというところでございます。

続きまして、7日でございます。匹見小・中学校に訪問してまいりました。

続きまして、11日でございます。こちらは、益田ライオンズクラブさんが認定されてちょうど60周年という機会で、その行事の一環ということでございますが、市のほうに図書費という形で多額のお金を寄附いただいたというところでございます。こちらに関しまして、後ほど議題に関わってまいります。

続きまして、13日でございます。新型コロナウイルス感染症の拡大等ございましてなかなか開けていなかったのですけれども、第1回文化財保護審議会を開催いたしました。

その次、15日でございます。人麿顕彰会からの要望ということでござ

いますが、再来年、2年後が没後1，300年ということになるということで、それに関する催物等を考えられているということで要望をいただきました。その日、併せて日本遺産推進本部会議が開催されたところでございます。

翌16日、第19回雪舟サミットが開催をされました。こちらは、岡山県の総社市、井原市、あと広島県の三原市、あと山口県の防府市、山口市、あとは島根県の益田市というところが関係市というところで連携をして開いているものでございます。こちらは、今回は2年後の令和5年ですけれども、岡山県の井原市で開催をされるという予定になっています。

続きまして、17日でございます。こちらは、昨年開催できませんでしたけれども、今年度は開催をするということで、萩・石見空港マラソン全国大会が開催をされたところでございます。こちらにつきましては、市内関係者、ボランティアとして約700名の方にご協力いただきました。また、参加者が1,800名ほど参加をされたということで、非常に盛大に、またいろいろな市内のボランティアの方のご協力があった無事開催をできたというところでございます。

その後、主なところだと19日ですが、都茂小学校に訪問してきたところでございます。

翌20日、中国の寧波市と友好都市30周年ということで、ご覧いただければと思いますけれども、市の正面のところに懸垂幕を掲げるということを行いました。

21日に東仙道小学校に行きまして、次の日の22日でございます。こちらは、県主催の学力育成会議というものがあまして、出席をいたしました。後ほど報告をさせていただきますが、全国学力・学習状況調査等の結果についての意見交換ということを中心にやってきたところでございます。

続きまして、25日に桂平小学校で、27日に中西中学校を訪問してきたところでございます。

教育長報告としては以上でございます。

梅津委員

美都中学校、都茂小、東仙道小、美都を回られて、印象とかご感想をよろしければお聞かせください。

高市教育長

1つは、特に今回回った学校ですと、吉田小学校を除いて大体どこも規模の小さい学校ばかりです。そういった中においても、子どもたちが非常に元気に、また仲よく学校の生活をしているという状況をかいま見ることができました。これは、ひとえに各校の校長先生をはじめ各担任の先生であつたり学校の先生方が日々子どもたちの様子を見て適切に対応いただいている日頃の努力のおかげだというふうに、見て感謝をしているところでございます。ぜひそういった、子どもたちが少ない、友達が少ないと

いう中でも、どういうふうに今後そういう子たちの教育を充実していくのかというのをしっかりと考えていく必要があると私としては課題として考えているところでございます。

梅津委員

ありがとうございます。

高市教育長

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

第3 議題

○議第14号 益田市教育委員会感謝状の贈呈について

高市教育長

それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

議第14号益田市教育委員会感謝状の贈呈についてです。事務局より説明をお願いします。

田原課長

おはようございます。私のほうから、議第14号益田市教育委員会感謝状の贈呈についてご説明させていただきます。

先ほど教育長の報告でもありましたとおり、益田ライオンズクラブ様から寄附をいただいております。益田市教育委員会感謝状贈呈要綱第4条の規定に基づき、益田ライオンズクラブ様に益田市教育委員会感謝状を贈呈したいので議決を求めるということになっております。

ページをはぐっていただきまして、推薦書を用意しております。氏名については、益田ライオンズクラブ会長野崎邦夫様。贈呈理由につきましては、益田市内の小・中学校図書購入費として多額の寄附をいただいております。というところで、ご寄附につきましては今後補正をさせていただき、各学校に予算配分という形で図書購入を今年度中に行っていくようにしていきたいということを考えているところです。

説明については以上になります。よろしくお願いいたします。

高市教育長

ありがとうございます。そうしましたら、本件につきましてご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

先ほどの予定等でも報告させていただきましたとおり、私、市内の小・中学校をいろいろと、まだ半分ぐらいにやっと到達しましたけれども、必ず学校に訪問をした際に見ることにしている場所の一つは学校の図書室、図書館を必ず見るようにしております。そういった中で、なかなか、言い訳にはなりませんけれども、市としては十分な図書購入費等を措置できていない中で、こういう形で多額の寄附をいただけるというのは非常にありがたいことだと思っております。

村上委員

本当にありがたいことだと思っております。こうしたことで学校の図書の充実が少しでも図られていくということは、子どもたちにとりましても本当によいことであると感じました。せっかくこうして寄附をいただいて施設整備された図書、何かの機会がありましたら、またライオンズさん

にも子どもたちがそうしたものに触れ合っている様子であるとか、何かお返しできる機会があればよいなということを感じながら聞かせていただきました。

高市教育長 ありがとうございます。そうしましたら、本件、採決を採りたいと思っております。それでは、この件について承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員 ＝全員挙手＝

高市教育長 挙手全員ということで、承認されました。全会一致ということになりますので、事務局におかれましてはそのような形で作業を進めていただければと思います。

また、今、村上委員からご指摘いただきました、活用状況であったりとかそういったものをご寄贈いただいた方にお知らせをする、報告をするということも重要なことだと思っておりますので、そのやり方等も併せて考えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○報第39号 「令和3年度全国学力・学習状況調査」及び「令和3年度益田市定着度調査」結果について

高市教育長 続きまして、報第39号「令和3年度全国学力・学習状況調査」及び「令和3年度益田市定着度調査」結果について事務局より説明をお願いします。

松元参事 それでは、先ほどありましたように令和3年度学力調査結果について、まず全国学力・学習状況調査、そして令和3年度益田市定着度調査を説明させていただきます。それぞれ説明させていただく前に、まずその2つの違いを確認させていただけたらと思います。

恐縮ですが、2種類の資料がお手元にあると思います。それぞれ1枚ずつめくっていただけますでしょうか。それぞれ1ページになります。まず、この違いですが、まず1ページの一番上、全国学力・学習状況調査についてご説明させていただきます。

これは、毎年やっておりますけども、国が行う調査となっております。そこにある目的ですが、1に書いてありますけども、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点からということで、そこにありますように学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。そして、児童・生徒への教育指導の充実、学習状況の改善を図る。そして、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。以上が国で示している目的です。

実際、ここに出されている問題といいますのは、新しく指導要領が改訂されましたけども、その指導要領に記載されている必要な力というものが

この学力調査に反映されています。ですから、そういった授業が求められているところが肝になります。

そして、一方の益田市の定着度調査になります。もう片方の資料の1ページの上をご覧ください。これは昨年度から益田市が始めた調査になります。いわゆる埼玉方式と呼ばれております。この調査ですけれども、目的としまして、いわゆる平均点というものから比べるというのではなく、子どもたち一人一人がどのように伸びたか、その伸びに着目して、よりきめ細かな個別支援を図ることを目的としております。この調査ですが、まだ今年は2回目というところで、昨年度と今年の伸びというところだけになりますけれども、これを来年度、再来年度と継続していく中で、その1人の子どもの伸びをずっと追っていける形になりますので、その子が例えば小学1年生から中学校3年生でどのように伸びていったかという一人一人の状況が分かる形になっております。そういった一人一人の個別支援ができるという大変貴重な調査となっております。ここは、出題する問題の難易度を設定しておりますので、PISA型のテストであったりTOEFLであったり、そういった調査方法と同じというところで、難易度を設定されているという信頼性も確保されております。

それから、目的の2つ目ですけれども、益田市の教育ビジョンに掲げる6つの重点目標というものを、しっかり改善を図って、結びつけていきたいと思っております。

それから、最後の3つ目です。よりよい指導方法というのを共有しまして、学力育成、人材育成につなげていきたいという目標の下、やっております。

それでは、この2つの大きな違いは説明させていただきましたので、今度は順を追って説明させていただきます。全てを説明することは難しいですけれども、特にここというところを絞って説明させていただけたらと思います。

それでは、まず全国学力・学習状況調査を改めてご覧ください。1ページからですが、実施しましたのが5月27日というところで、例年でしたら4月にやっておりましたが、昨年度の調査はコロナにより中止と。今年度も一月遅らせて調査を実施しております。

そして、2ページをご覧ください。結果の概要を一番上に示しておりますけれども、ここだけ簡単に述べさせてください。1つ目、各教科の平均正答率についてというところで、小学校6年生の国語、算数は県平均とほぼ同水準でした。ですが、全国平均よりはそれぞれ3ポイント程度下回っております。中学校3年生については、国語、数学共に県平均、そして全国平均と比べ、差はありますけれども4ポイント以上下回っています。

それから2つ目、小6の国語についての特徴としましては、言葉の特徴

や使い方に関する事項については全国平均並みだったのですが、他の領域については全国平均を大きく下回っております。それから、小6の算数については、そこに書きました数と計算、図形は全国並みでしたが、他の領域は全国平均を大きく下回っております。

それから、中学校3年生の国語、数学については、全ての領域で全国平均を下回るという結果になっています。それぞれの学年ごと、教科ごとに、そういった特徴、分布とかが書いてありますけども、今年度より例年に比べて変更したところがございます。例えば真ん中に分布図という、どの正答率に何人いるかという分布図ですけども、例年は問題の問いの数、問い数で表記しておりましたが、その下の表にありますように正答率という百分率を使っておりますので、今回から100%、例えば93%、85%、この中に何人いるかという形で整理しております。国語科に関しては、合計14問あるということで、一つ一つの問題が約7%の重みがあるというところで、このような結果になっております。

それから、その下に表がありますけども、例年は61.5とか68.2とかという形で小数点第1位も示しておりましたが、より分かりやすく、直感的に分かりやすくというところで、今回は整数表記をさせていただいております。

そして、中身ですけども、国語については、先ほど申し上げましたように教科総合について、益田市は全国平均を4ポイント下回っているという結果になっております。

それから、3ページをご覧ください。3ページが小学校6年生の算数です。一番上のグラフがありますが、これは算数・数学については合計16問、問題の数がございます。ということで、一つ一つの重みが約6%というところで、先ほどと数値が微妙に違っています。

1つだけ訂正させていただきたいのですが、そのグラフの下の方に表があります。益田市から県を引いた数、データの活用という領域がございまして。データの活用という領域ですけども、そちらの欄の一番右側を見ていただきますとマイナス3と書いてあります。ここは、下向き三角を表記しておりませんでした。マイナス3ポイント下回ったということで、下向き三角を表記することになっておりますので、そこを修正させていただけたらと思います。

正答率については、そちらに書いてあるとおりです。それから、中学校3年生、国語、数学ですが、中学校になればだんだん差が開いていく傾向が、全国、県と比べても顕著に出ておりました。後ほど説明させていただきます。

次、意識調査になります。6ページをご覧ください。6ページ以降が意識調査になっておりますけども、主に7ページを見ていただけたらと思い

ます。7ページの(4)から、国語が好きかどうか、それからよく分かるかどうかという、国語、算数・数学について書いてありますが、国語、算数いずれの教科も好きという数値が全国及び県と比べても低い数字が出ております。理解できるということはもちろん大切ですが、それに向かう学びの意欲、好きというその心が大事だと思っております。

それから、9ページをご覧ください。9ページからは、(10) 平日の家庭学習時間になっています。家庭学習時間の確保ということを上げておりますけれども、今回の学力調査に関しては小学校6年については全国平均、県平均を上回っております。それから、中学校3年については、かなり大きく下回っておる結果が出ております。

それから、11番、平日どのぐらいの時間テレビゲームなどをしましたかという質問ですが、これは質問変更と書かせていただきました。つまり、これは質問内容が学力調査、年によって変わっておりますけれども、実はこれ、令和2年度にはこの問題があったのですが、昨年度はコロナで実施しておりませんでした。ですから、そういった意味で、平成31年から質問が変わったという意味で質問変更という形にしております。実際、テレビゲームの時間ですが、小学校6年についてはほぼ全国、県平均と同じというところですよ。それから、中学校3年についても、県よりは大きく上回っておりますけど、全国とは同じような結果になっております。

11ページをご覧ください。今後の対応ですが、以上の点を考えております。まず、各学校の実践に対する指導ということで、この後出てきますけれども、益田市の定着度調査と合わせて、同じ時期に学力調査を行っております。その点を踏まえて、この全国学力調査及び益田市定着度調査の結果というものに基づきながら、PDCAサイクルについて、10月より計画訪問を始めております。

それから、2つ目が益田市未来の担い手育成コンソーシアムにおける協議ということで、市内の小・中学校から選出された教職員、それから私たち事務局で構成され、学び部会を立ち上げております。その中で、実際に益田市の子どもたちについて必要な学力は何か、どのような構想が必要なのかというところを実際に協議し始めたところです。そういうところを踏まえながら、生かしていきたいと考えています。

最後、3つ目です。3つ目は、学習習慣の定着の推進ということで、年度当初の学校訪問しながら伝えた内容と重複しますが、授業につなが家庭学習というものを実践していくということで、課題提示をすることであったり、1人1台端末が配付されていたりしますので、そういった活用ができるのではないかとかいうことを具体的に協議しているところです。

それから、PTA組織と連携したメディアコントロールということで、学校だけではなく保護者さんとかとしっかりつながって、一緒になって減

らすということが必要になってきますので、そういったことを改めて推進していくというところ。

そして、最後になりますが、学び舎ますだというものをやっておりますけども、それに併せまして、8月にありました算数・数学パワーアップ教室、大学生に指導してもらうものでしたけども、そういったものを使いながら学ぶ場を確保していきたいと考えております。

続きまして、今度は益田市の定着度調査の説明をさせていただきます。では、1ページを改めてめくっていただけますでしょうか。これは、実際の伸びが分かる初めての年ということで、この仕組みから説明をさせていただけたらと思います。

2ページをご覧ください。目的でも申し上げましたが、この学力調査の特徴といいますのは、伸びが一人一人きめ細かく分かるというところが特徴であります。(1)ですけども、出てくる言葉ですが、学力のレベル、それと学力の伸びっていうものがございます。読みながら説明させていただきます。本調査は学力を学力のレベルとして提示しているというところです。これは、小学校4年生から中学校3年生までの全ての問題に難易度を設定しています。それを設定することで、学力のレベルを測定するということになります。

それから、その下の四角になります。この調査における学力レベルの考え方ですが、どのぐらい難しい問題を解く力があるかということを経験のレベルで表しています。レベルが上がるほど難易度の高い問題を解く力があるというところ、そしてレベルは大きく分けて1から12まで存在しています。ですが、その一つのレベルの中に、さらに3分割しておりまして、それぞれA、B、Cと位置づけていますけども、大きいレベルが12個ありまして、その中にそれぞれ3つレベルがあるということで、細かく分けた場合は36レベルあるという形になります。

それから、その下のほうに本調査における学力の伸びということですけども、昨年度、例えば今年度ということを経験しながら、その学力のレベルの差がどうだったかというところを経験の伸びとして考えています。学年が上がるごとに、学年レベルが3伸びる設計となっていると書きました。

具体的にどういうことかと申し上げますと、その下の(2)に学力の伸びの捉え方の例というのがございます。その図を見ていただければと思うのですが、例えば一番左にレベル1からレベル12までということで、大きなレベルが掲げてあります。それからずっと右側に行けば学年が上がっていきませんが、網かけがしてあるねずみ色のところがあると思います。これは、その学年の対象外のエリアになりまして、そこにある白抜きのところ、それがその学年におけるレベルの範囲になります。ですから、例えば小学校4年生で言いますと、レベルというのはレベル1から7までが白抜

きのところ、これが4年生のレベルの範囲と考えています。小学校5年生になれば、大きいレベルが1つ上がって小さいレベルが3つ上がりますので、小学校5年生で言いますとレベル2からレベル8までがエリアになります。というわけで、学年が上がれば、それだけレベルが上がる設計という形になっております。

では、3ページをご覧ください。一人一人の伸びを大事にするということは市の概況ということで平均を出しております。一番上ですけれども、令和2年度から令和3年度の学力の伸びの結果ということで、①番がレベル値、先ほど申し上げた大きなレベルは12までですが、小さいレベルは36段階あります。その36段階でどうかというところで書いてあります。

国語科については、全体の伸びの平均は1.4というところで、それぞれ見ていただきますと水色の網かけがしてあるところ、これが今年度の子どもたちの結果になります。例えば小学校4年生、一番下の現小4を見ていただけますでしょうか。現小4というのは、その表の一番下にございますが、今年初めて受けた小学校4年生は1.5という平均になります。そして、その一つ上、現小5というのは、昨年度、小4のときに1.5だったレベルが、その右側、小5になったときには1.6になったということになります。国語科については、期待値には達しませんでした。このような結果となっております。

それから、算数・数学、その下の表をご覧ください。これは、全学年の伸びの平均を出したときには2.6というところですけど、それぞれ傾向が違いました。具体的に申し上げましたら、読み方は先ほどと同じですけども、例えば現中1の学年、それから現小6の学年については、期待値の3を超えたということで大きな伸びが見られました。

それから、4ページをご覧ください。4ページですけども、これは学力の伸びの状況がどうだったのかというところをグラフで表しています。学力レベルが4以上伸びた児童・生徒の割合と掲げましたのは、なぜ4なのかということですけども、先ほど申し上げた学力レベルが3伸びる設計になっていますが、私たちが第6次の総合振興計画の中でKPIとして3.1を掲げております。それが令和7年までの目標ではありますが、3.1以上ということで4と掲げたものがそのグラフの結果となっております。それが国語科、算数・数学科、それぞれに掲げてあります。

概況を申し上げたら、一番下の囲みに書きましたけども、国語科、算数科共に、全ての学年において4以上の伸び率は50%を下回っております。中学校に比べ、小学校のほうが、伸び率が高い傾向があるようです。

それでは、5ページをご覧ください。5ページから7ページまでは、益田市教育ビジョンの重点目標に掲げるものが意識調査とどのような関係があり、どういう結果だったのかということが掲げてあります。

全ては申し上げられませんが、今回の結果としては7ページをご覧ください。6つの重点目標を掲げておりますけども、7ページ、左側の表を見ていただくと、重点目標、自律というのがございます。それから、その下、支え合いというのがございます。この自律と支え合いというのが80%を超えるという高い数字が見られております。

最後、8ページになります。8ページは今後の対応ですけども、結果を受けて、各学校には次のような取組を考えています。1つ目が、各学校の実践に対する支援の充実というところで、今、各校第2回目の学校訪問、この結果を基に始めておりますけども、次のように資料をまとめて分析をしているところです。1つ目のぽつが、学年ごとに教科（国語、算数・数学）ごとの定着度のレベル状況をまず把握するというところ。それから2つ目が、学年ごとに教科の強みと弱みを分析して、特に弱みについてはしっかり対策を取るというところ。これは、全国学力調査とも共通するものをしっかり掲げる中で、そこに対応していくというところを掲げております。それから3つ目が、教育ビジョンの6つの重点目標の到達率を確認して、それぞれの体制に生かしていくというところです。それから4つ目、クラスごとの子どもたちがおりますので、先ほど言いましたように個に応じた指導が大変大事ですので、どのように個に応じた指導をするのかというところを記載したものを求めています。

それから、今後の予定にはなりますけども、2の学力を伸ばしている取組の共有化というところで、実際に各学校に学校訪問をしておりますけども、例えば国語を伸ばした先生、例えば算数を伸ばした先生、数学を伸ばした先生というのが、どうやったら伸びたのだろうかというところをしっかりと取り上げて聞き取りしながら、その伸ばした指導から学ぶという研修をしっかりと行っていきたいと思っております。

概要を申し上げましたけども、以上報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

梅津委員

益田市教育ビジョン6つの重点目標の中で、郷土愛と不撓不屈と活力と発信力というのは、小学校はいいですが、中学生になったらだんだんと平均値が下がるような感じになっていて、自律と支え合いというのは中学生になって平均値を上回るような感じになっておりますが、思春期でもあり、なかなか難しい年代になると思うのですが、せめて自律と支え合いが、平均値を上回っているところでいいなと思います。あとの郷土愛とか不撓不屈とか活力、発信力の、中学生の生徒に対してどのように対応されるのか教えていただければと思います。

松元参事

ありがとうございます。ご指摘のとおり、こういった結果が出ております。それで、各項目に質問項目としてそこに、例えば1の郷土愛で言いますと、今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っていますかとい

う質問がありますけども、この結果というものを、見据えていくことも大事ですけども、それに関連する質問というのがその下に掲げてありまして、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する。重複している質問もありますが、学校の先生方は自分の悩みに相談に乗ってくれましたかというのを含めて、このような質問を絡めながら、具体的に何ができるのかというところを聞き取りの中でも行っているところです。例えばある学校の例で示しますと、確かに支え合いは比較的高い数字を示すのですが、こういったことは確かに自分らの実感としてあると。逆に、例えば先ほどの郷土愛、不撓不屈については、これが課題であるというところは、協議の中で具体的に対応していくということをやられている学校もあります。ですから、それを見詰めながら具体的に取るということ、また意識するということが大事ですので、それを各校とも協議しながら行っていきたいと考えています。

大庭委員

梅津委員さんのことに関連してですけども、郷土愛とか不撓不屈のところがございますけども、郷土の歴史や自然への関心とか、そういった将来の夢、目標ですね、その数値が先ほど言われたように学年が上がるほど低くなっているのだということがあるのですが、ここで特に大事にしなければいけないのは将来の進路や生き方に関わる非常に大事な部分でありますので、特に中学生の数値を上げることが非常に肝要ではないかと思っております。

それから、7 ページですけども、ここに自律とか支え合いという部分がありますが、これは8 ページに2 番の枠組みがありますが、そこでいわゆる学力等を伸ばしている取組の共有化の中で、特に非認知能力等というのがありますけども、この非認知能力の特にこれは社会と関わる力の部分ではないかと思うわけでありまして。そうしたときに、見てみますと、学年が上がるにつれて数値が高くなっております。これは、社会性が身につく、それが行動や態度となって現れていくことが考えられるなと思いました。これは感想ですけども、以上です。

高市教育長
大庭委員

ありがとうございます。ほかございますでしょうか。

ほかの部分でよろしいでしょうか。学力調査結果についてですけども、3 ページをご覧いただきたいと思うのですが、先ほど訂正が、たしかデータの活用のところの下向きの三角を入れるとありましたけども、それ以外のところで、数と計算のところの益田市、全国という欄がございますが、あそこはマイナス2 になっていますので、ここは下向きの三角じゃなくて空白でいいのではないかと思います。

それから、その表の下の実線で囲った枠ですけども、その最初の黒ぽつですけども、達成率100%と書いてあるのですが、これは達成ではなくて正答率ではないかと思えます。そこの訂正をお願いできたらと思い

ました。

また別件ですけども、4ページで、中学3年生の国語がありますけども、中学3年生、大変課題が大きいなと思いましたけども、その中で、読むことというのがありますね。あそこで益田市は全国に比べてマイナス10になっておりますけども、ここはすごく重要ではないかと思っています。つまり、読む能力というのは、あらゆる学習の基本じゃないかなというふうに思うわけであります。国語の問題だけではなくて、やはりこのスコアというのは他教科への影響が非常に大きいように思いますので、今後しっかりこの辺は重視していく必要があるのではないかと思います。

それから、7ページですが、こちらのほうで設問として国語が好きとか算数・数学が好きという設問がありますけども、これを見たときに全国や県と比べて小6、中3共にちょっと低いなということですけども、好きこそものの上手なれという言葉があるように、国語や算数・数学に対する好感度、こういったものが全国や県に比べて低いということは、国語や算数・数学の学習内容の理解の低さにつながっているということをつくづく感じております。

結果として、学力調査に向けて、全国や県と比べた数値の低さ、こういったものを謙虚に受け止めるといいますか、真剣に受け止めて今後の改善を図っていくことが大事ではないかなと思います。とにかく学習好き、教科好きの子どもをつくるということがとても大事ではないかと感想を持ちました。以上です。

村上委員

ご説明ありがとうございます。私は、感想や、ちょっと質問が交じるかと思いますが、これまで様々家庭学習に問題があるということが益田の中でもありましたけれども、今回の意識調査の中に小学校6年生で1時間以上勉強する人たちの数が少しよい傾向にあるといいますか、そういったところがすごく改善しつつあるのかなというところが1点、何か希望が持てるような感じがいたしました。そういった背景がどういったところにあるのかというようなところも少しまた精査をしていきながら、継続できるものは継続していくことができればと感じたところです。

全体として、この学力調査の結果については、全国平均を依然下回るといようなところが続いているわけですけども、特に中学3年生ではその差が少しずつですけども広がっていったのではないかと思います。特に先ほど大庭委員さんもおっしゃられたように、算数とか数学が好きとかよく分かるといったような項目において非常に差がついているというところとかで、何らかの対策というのが益田市としても急がれるのではないかと思います。この結果を見ました。

定着度の今後の対策のところ、これまでそれぞれの担当する先生方ともこれから話合いや解決策に向けての協議があるということで、今後の

方向性について、その辺をしっかりと考えておられるのだなということも分かりましたので、ぜひとも何らかの具体的な対策が示されればと感じました。それぞれの授業の時間というのが、非常にまた大事になってくるかと思われま。いろいろ益田市の家庭の環境であるとか地域の環境を考えると、なかなか一律に家庭での充実というのが何か難しいようなことも浮かんでくるわけですが、学校にいる時間の中でいかに授業を濃厚なものに、充実したものにするかというところで、人の配置が必要なのか、何が足りないのかというようなところを、具体的な案が出てくればと思います。

あともう一点は、この結果はもう既にそれぞれの学校には行っているのでしょうかということのご質問と、具体的な学校がどうこうということは必要ありませんけれども、市内での学校、いろいろ大規模校、小規模校ありますけれども、ばらつきがあるのかどうかということがお聞きしたいと感じました。それは、なぜなら特に小学校6年生の意識調査の中で、学校が楽しいというようなところが非常に下がっているといったようなことは私もとても危機感を感じたのですけれども、担当しておられる先生方とか関係者の方々はさらに重く感じておられるのではないかなということ、結果を見て感じておられるものがあるのではないかと感じました。そういったところへのサポートといいますか、そういったものも今後必要になってくるのではないかなということを感じまして、1点質問をさせてもらいました。以上です。

松元参事

ありがとうございます。順番が前後するかもしれませんが、ではお答えします。まず、家庭学習が改善されてきているという点については、一定の評価をしております。それが中学校になればというところがあったのですが、先ほど申し上げた学び部会を前回実施したときに、小学校と中学校の接続というのが一番大事だろうという話が出ました。例えば家庭学習の仕方や授業スタイルです。それから、小・中接続、ギャップをなくすというものが一つの話題となっておりますので、そこで何が課題なのかというところを含めて協議できる場というのは考えているところです。

それから、先ほどの調査の結果ですが、各学校が把握しているのだろうかというところで、この教育委員会がまとめた評価の報告書についてはまだ渡しておりませんが、自分の学校が例えばこのようにそれぞれの教科、それぞれの質問肢の内容についてどのような結果だったかというのはもちろん把握していますし、全国平均、県平均というものも含めて、一覧表は全ての学校で把握しています。

ばらつきがあるかというところですが、お伝えできる範囲ですと、比較的大きな学校の中でも当然ばらつきはありますし、小さな学校の中でもばらつきがあります。それを踏まえての対応になるのですが、定着

度調査と絡めての対応になります。では、どうすれば伸びるのかと、どう子どもに接したら伸びるのかというところに着目したときに、先ほども申し上げた定着度調査というものを踏まえて言いますと、どの学校のどの教科がどれだけ伸びたか、もっと言うと、どの学校のどのクラスが伸びたかというのが全て分かります。ですから、そういった伸ばした先生というのが分かりますので、なぜ伸びたのかと、どのような指導をしているのかと、もしかしたら教科の指導方法かもしれませんし、小学校でいうと学級の担任の雰囲気かもしれません。そういった伸ばした先生が何に気をつけて授業をしているのかというところを具体的にその先生から市内全部の先生が学ぶというところを、今聞き取りしながら計画をしているところです。すぐにそれが次の調査に生きるかどうかは分かりませんが、伸ばすっていうところに着目しながら、そういった取組を市全体で、市教委もやっていきますし、各学校でもやるようにということで、連携してこのことを今進めておりますので、またその途中経過も含めてご報告できればと思います。

村上委員

ありがとうございました。定着度調査によって、各クラス、各授業それぞれの中身が如実に分かってくるというのは、教える先生方にとっても厳しい結果であるなということを感じながら聞かせていただきました。確かに、子どもたちがしっかり学力を伸ばしていったクラス、その担当する先生方の意見もさることながら、またなかなかそれが実績として出ることができなかったクラスや、その担当する先生、関わっていた先生方への配慮といいますか、そういったところも、それは先生方だけの責任ではなくて様々な要因があるかと思うので、そういったところも配慮していきながら、全体の子どもが伸びていけるような取組をお願いしたいと思いました。以上です。

松元参事

ありがとうございます。いろいろ大事な点をご指摘いただきました。配慮ということをおっしゃっていただきましたけども、実はそれ、非常に私たちが心がけているところで、先ほど申し上げました、この教科でこのクラスが伸びた。分かるということは、伸びた学級が分かれば、伸びない学級も分かります。ですが、私たちとしては数字だけ見るつもりはありません。確かに7伸ばしたクラス、教科があったとしても、数字だけではなく、学校に伺って、聞き取りを行い、この先生はこう伸びているのだよというところや、何が原因なのかというところを把握します。数字だけでは見えない世界が当然あります。一方で、伸びは低いかもしれませんが、でも伸びています。実を聞けば、なかなか学級経営が厳しいクラスだということも当然出てきます。ですから、数字と実際の指導というものを見ながら、判断をしていきたいとは思っております。

村上委員

ありがとうございました。お願いします。

高市教育長

先ほど村上委員からもご指摘ありましたけれども、これはただあくまで

も結果であって、今後どういう改善策、対策を取っていくのかということを学び部会等で検討されるということです。ぜひそういった検討の結果やどういう対応を取っていくのかということ、学力に限らず、先ほども大庭委員、梅津委員からもご指摘いただきましたけれども、郷土愛や不撓不屈という質問項目の部分、また授業が好きとか、授業が分かったといった部分というのも、それは直接学力的なところではないですけれども、当然関係をしている部分であろうと考えられますので、そういったところ、いわゆる市の学校における課題をきちんと抽出をして分析をして、それに対する対策というところで、学力だけではない部分についてもぜひ対応策というのを検討して考えていただければと思いますので、私から追加でお願いをするところでございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第４０号 文化施設２館の目指すべき将来像について

高市教育長

続きまして、報第４０号文化施設２館の目指すべき将来像について事務局より説明をお願いします。

大畑推進監

お手元にあります２つの資料、Ａ３横の資料ともう一つはホッチキスで閉じた資料でございます。まず、ホッチキスで閉じた資料が、平成２２年（２０１０年）に文化施設の目指す将来像に関する答申です。すなわち、益田にあります主だった文化施設、歴史民俗資料館、雪舟の郷記念館、秦記念館、美濃地屋敷というものについての在り方について、現状、それから目指す方向性ということでお示しし、答申が出ているというものです。

これを踏まえながら、今度は仮称ではありますがビジターセンター的な機能を持った複合施設になるだろうと言われている旧歴史民俗資料館と雪舟の郷記念館、ここのところの位置づけであったり役割であったりをこの答申に沿いながら整理をしたということで、これが結論ではありますが、現状こういう整理をしながら、次の形も含めまして、条例を制定することを踏まえながら整理したということでございます。

Ａ３横の資料を見ていただきますと、上段のところにはこのように課題等々、そして指摘されている事項がございまして、今後こういう機能をどうするのかということで、実は歴史文化研究センターというものがそれについてしっかりと調整していくのだと示しています。調査研究は進んでおりますが、その他の整理はまだ不十分だということもあるかと思いますが、現状であります２つの（仮称）ビジターセンターと雪舟の郷記念館につきましては、この２つでここに示されているように様々な機能を役割分担しながらやっていく必要があるだろうと思っています。端的に言いますと、

雪舟の郷記念館と歴史民俗資料館の条例を見ただけでも、かなり重複しているというのは見てとれます。個々のところでこの機に整理しながら、来年度、新しいビジターの条例をつくりまして、その中においてこの整理もかけながら、機能をきちっと役割分担することで有効に施設が連携しながら、今までよりも価値高きものができるようにと思っております。また今後も経過につきましてはご報告させていただきますので、それについてまたご意見をいただきながら事務局として推進をしていきたいと思っております。

主に言いますと、雪舟の郷記念館の調査研究機能、それから収集、それから展示というところ、特に中世の様々な古文書等々も収集、それから調査しておりますので、絵共々そういう中世メインの調査研究の館になるのではないかという形が今見てとれます。

ビジターのほうは、主に市民がしっかりとそこで活動するということで、箱物を造って人が来るというのではなく、人がたくさん活動するからこそ、その箱物が生きてくるのだという形での整理をしているところでございますので、これも議会で説明しておりますが、そっちが主になってくる。その結果として、多くのビジターが訪れるような、観光にも資する場、拠点になっていくだろうと。いきなり観光の拠点には絶対になりませんので、まずは市民がしっかりと活動するというのが当面この新しい館の中心機能になるのかと現状では整理をしているところです。以上です。

大庭委員

私、以前、雪舟の郷記念館に1年ほど館長として勤めさせていただきました。そのときに、収蔵庫等に入っているいろいろな作業をすることがあるのですが、雪舟の郷記念館という名前がありますように、雪舟に関わるいろいろなものが大きな大前提としてあるのかと思っておりましたが、いろいろなものが混在しているというのが現状でありました。特に、例えば収蔵庫の中に入りますと、人麿関係のものとか、それからいわゆる近現代美術のいろいろな絵とか、様々なものが収蔵されておりました、その中に雪舟のいろいろな関連のものが入っておるということで、なかなか統一性を出すのが難しいなということを常々感じておりました。先ほどのご説明の中で、雪舟の郷記念館というものを、いわゆる中世に特化して何かそういう体系的なものをつくり、運営していく方向にしていきたいようなお話でしたので、非常にいいかと思っております。

それから、旧歴史民俗資料館のほうですけども、これにつきましても日本遺産ビジターセンターという、仮の名前でしようけども、こういったものが新たにできるということで、そこにたくさん人を呼んでいくことが重要だということでお話がありました。雪舟の郷記念館と、それから旧歴史民俗資料館、つまり日本遺産ビジターセンターの役割がかなり明確になってきますので、そこをさらに明確にして、これから新たな出発をしていく

ことがすごく重要かと思います。よろしくお願いします。

大畑推進監

収蔵物などはかなり整理し、市民の絵等については昨年度、一昨年度で大体整理し、大分隙間ができました。あと、雪舟に関する絵のグランプリ、雪舟グランプリを実施しました。この分も実は収蔵がうまくできてないというのが現状分かっています。これは、企画部門でやったのですが、誰がやったのか分からず、点在しています。一応専門家に見てもらいましたら、その当時、新人が今とても著名になっている方のものがあって、いろいろな美術館が貸してほしいという状況です。そういう価値ある絵、歴史的に言う短いですが、そういうものもあるというのが益田の財産ですが、残念ながらまだ収蔵する場所がないというのが現状です。併せて資料の収蔵に関して今メタデータの整理をかけさそうと思って調べたところ、非常に不備がたくさんあったということも分かっておりますので、この機に調査研究、収集に関するメタデータ化ということをおこなう中にきちっと位置づけて、その上で雪舟の郷記念館にいる職員が中心になりながら、あらゆる収蔵物、要するに歴史民俗であったりとか絵であったりとか様々なところのメタデータ化を、少し時間はかかりますが、しっかりやるという位置づけをしました。価値ある絵のメタデータがもしかするとなくなるかもしれないということは学術的に言うと、ごみになるということですので、この機に調査研究を雪舟の郷記念館のほうに課したということは、全体の収蔵物のまずは調査といいますかメタデータ化ということをおこなうということをおこなわないと、あれはあそこに所蔵している、これはここに所蔵しているではない形にしたいなということで、人員を含めた整理をおこなうこの機にかけたいと思っていますところです。なかなか大仕事ではあるのですが、またいろんなご助言をいただきながら推進していこうと思いますので、よろしくお願いします。

村上委員

その話を聞きまして、とても将来像も具体的になって、進んでいくのだなということが分かって、とても安心いたしました。このところ、企画展があるたびに雪舟の郷記念館に私は行っておりましたが、そのたびに私一人しか、そこに誰も入館者がいないという状況をいつも感じておりまして、何とかここが有効に活用できるような方法はないのかなと感じながら、その中で展示物を見ておりました。具体的なこうしたイメージが湧いてきますと、雪舟の郷記念館は場所的にも市内から近いですし、そこに座っている景色というか、そういったものもとてもきれいなところですので、市民の多くの人にも足を運んでいただけたらいいところになればと思います。よろしくお願いいたします。

高市教育長
教育委員

ありがとうございます。それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は11月29日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 10時50分＝